

本年度は、開学 40 周年に向けて掲げた「短大中期計画」の 3 年目に入る。さらなる飛躍の年として教職学一体で取り組んでいく。

この中期計画では「女性（あなた）が輝く未来を拓く」とのテーマを掲げ、2 年間の学びをとおして、一人ひとりが自分らしく輝く土台を作り、自身の未来を拓くことができる教育に取り組んできた。この 2 年間の成果をふまえ、いよいよ次の段階へと歩みを進める。そして、さらに女性が輝く社会を拓く人材を輩出していきたい。

この 2 年間、「輝く女性育成」と「SDGs」の推進という二つの柱を軸として取り組みを進めてきた。輝く女性育成推進では、「これからの社会と女性の生き方や働き方」の企画セミナーの定着化をはじめ、「偉人に学ぶ女性の生き方」の勉強会を開催し、小冊子にまとめるなど充実をはかってきた。

SDGs 推進では、各種のワークショップを中心に、身近なところから行動を起こし、地道に活動を進めてきた。特に「生理の貧困」について、一昨年、初めて生理用品の無料ディスペンサー設置という学生主体の挑戦の一歩に続き、昨年度は嬉しいことに東京都が実施する「都民による事業提案制度（都民提案）」に挑戦。都民投票で第 2 位に選定され、「働く女性のウェルネス向上事業」として予算化され実現していることは素晴らしい成果といえる。

英語能力の向上を目指す E-Swans（英語特別プログラム）では目標の TOEIC730 を突破する学生も増加し、実績を残すことができた。資格取得においてもビジネス特設クラスを中心に上級資格も数多く取得し、検定協会よりビジネス文書検定で感謝状、個人で理事長賞・優秀賞（全国 2 位、3 位）を受賞するなど、確実に教育成果を上げることができている。

また、学生の活躍という点でも、「大学コンソーシアム八王子主催 学生発表会」では、7 チームが最優秀賞を含め各賞を受賞するなど地域貢献へ活躍。「八王子学生 CM コンテスト」の周知ポスターデザインでは、最優秀賞に選ばれ八王子各所にポスターが掲示されている。

その他、各種コンテストへ挑戦し、「人生 100 年時代の社会人基礎力育成グランプリ」でも高い評価を勝ち取り、本学の教育力の高さに注目が集まっている。

コロナ禍を乗り越えて、逞しく挑戦する本学学生の成長の姿を強く感じる事ができた。

新しくスタートした、確かな実力を身につけ社会で輝く女性を育成するためのカリキュラムは、いよいよ完成年度を迎える。さらなる充実をはかりたいと考えている。これまでの実績のうえに、本年度はさらなる飛躍を遂げるために、中期計画で掲げた「教育・研究」、「学生支援」、「入試・広報」、「進路・就職」の 4 つの柱と、それらを支える「経営基盤」の構築をもとに、取り組みを進めていきたい。

昨年度、入学定員の見直しとともに、同窓生（子女を含む）推薦入試という新たな入試制度を導



（贈呈式にて小池都知事と）

入した。また、教員と職員が一体となって受験生増加のために取り組む体制を整えた。本年度は、より一層、多様な受験生の増加に全力を挙げて取り組んでいきたい。

コロナ禍という未曾有の状況乗り越えて、創立者池田大作先生の示された建学の指針に合う「創価の女性教育の城」を目指して、どこまでも学生第一で、教職員一同、力を合わせて取り組む決意である。

## 1. 教育・研究

社会で輝く女性の育成を目指した教育内容・制度の充実のために、以下の4点についてのさらなる改革を進める。

中期計画に定め、昨年度取り組んできた「輝く女性育成」と「SDGs」の二つの推進軸を、本年度さらに発展させ、全学をあげて取り組む。

### (1) カリキュラム改革

昨年度より新カリキュラムとなり、本年度は完成年度を迎える。教養科目については、グローバル社会における女性のエンパワーメントを目指した科目群と位置づけ、授業内容の改変や新たな授業科目を設けている。具体的には、新たにライフデザイン科目群と地球市民科目群を設け、ライフデザイン科目群には女性としての生き方・働き方を学ぶ「女性のためのライフプランニング」、「ワークライフバランス入門」、地球市民科目群にはSDGsやグローバル社会の動向を学ぶ「SDGsと経済社会」、「発展途上国の政治と経済」などを新設した。

専門科目については、多彩な進路（就職・進学・留学・編入学等）に合わせ、従来のカリキュラムを発展させ、さらに4つの科目群の中に選択必修科目を設けて、集中的に専門的な知識を身につけることができるようにした。また「FP初級・中級」「税と社会保障」など、社会のニーズをふまえた科目を新たに設けている。本年度は、新カリキュラムの2年目として新設科目を含め、授業実施を着実に進め、教育内容の定着をはかりたい。また、進路に応じて効果的に学べるよう、履修モデルの整理を進める。



(新カリキュラムにて更なる教育の充実)

また、「輝く女性育成」と「SDGs」の二つの推進については、課外でのセミナーやワークショップなども実施し、さらなる充実をはかる。

### (2) 海外語学研修と資格取得教育の充実

まず、海外語学研修については、昨年度、SUA 短期留学プログラムを3年ぶりにSUAのキャンパスで実施し、オタゴ大学語学研修は3年ぶりに現地で実施できた。またフィリピン・ミリアムカ

レッジ語学研修は、オンラインでの実施となった。本年度は、全ての海外語学研修を現地で開催する予定である。

さらに、研修内容を実りのあるものにするためにも英語力の向上に加えて、国際ビジネス学科の専門的な学びとの連動性を確保できるものになりたい。海外語学研修の前後で履修すべき科目を明確にし、連動した学びの仕組みを整理し、学生の英語力がさらに身につくようにしていきたい。また、SUA短期留学プログラムの授業内容等の改変、充実などを目指す。



(SUA 短期留学参加者の集合写真)

次に、資格取得教育の充実については、昨年度は土曜講座の全ての講座を対面で実施でき、また学内での検定試験等も実施できた。

本年度は、TOEIC、MOS など学習成果を測る指標としての資格取得の推進を検討する。また、例えば、ホテル、ブライダル、CA、医療事務など社会のニーズをふまえ、授業科目の充実や新たな資格講座の導入を目指す。

### (3) 教育制度の改革

本年度は、クォーター制の導入、授業時間の見直し(100分制)について検討を進め、学習成果の測定と可視化についての点検を行う。また、学習支援センターと図書館の機能の統合についての検討を進める。

### (4) 教員の研究力の向上

昨年度は、教員の業務負担を軽減し研究時間を確保するため、委員会等の定員の見直しおよび削減を行った。また、紀要についてはSDGs特集号を発刊した。本年度は、研究環境の整備を進め、紀要論文の執筆を促進し、科研費等の申請数の増加を目指す。また、教育・研究業績の評価や研究費の傾斜配分等についての検討を進める。

## 2. 学生支援

豊かな教養を身につけ、充実した学生生活を送るための支援の拡充を進める。具体的には以下の3点に取り組む。

### (1) SLS(スチューデント・ライフ・サポート) セミナーの充実

課外で実施している「SLS(スチューデント・ライフ・サポート) セミナー」について、昨年度は、例年開催の内容に加え、「輝く女性育成推進企画セミナー」と共催して、短大生だけでなく、短大卒業生・東西の創価学園女子生徒にもオンライン等を利用した参加機会を提供した。本年度も引き続き「輝く女性育成推進企画セミナー」と共催して、これからの社会で必要とされる内容を検討し、さらなる充実をはかる。

## （２）寮生活支援

日常的に寮生一人ひとりの生活面や学習面などの支援の充実を目指し、教職員による寮生活アドバイザー制度の試行実施を検討してきた。昨年度は感染拡大を考慮し開催を見送ったが、本年度は、コロナ禍の状況を見つつ、実施に向けての取り組みを進める。

## （３）障害学生の支援体制の整備とサポート

昨年度は、「障害学生支援室」を開室し、合理的配慮を必要とする学生への支援を開始した。本年度は、昨年度の実施結果や申請者からのフィードバックを参考にしながら関係部署と連携し、障害を持つ学生の修学および学生生活についての支援をさらに整備し、充実に取り組む。

## 3. 入試・広報

短大を巡る受験者の減少は顕著なものとなってきている。本学にとって多様な学力や高い意欲を持った人材の獲得は最重要の課題である。本年度も受験者の増加に全力を挙げて取り組む。

従来の入試制度を分析し、入試制度の見直しおよび改善をはかってきた。特に昨年度は、同窓生（子女を含む）推薦入試を新たに導入し、実施した。また、卒業生に短大からダイレクトに情報発信できるメール登録を実施し、入試広報を含めた短大情報を発信できる体制を整えた（現在約4,000名が登録）。本年度は、同窓生（子女を含む）推薦入試制度のさらなる周知と推進に力を入れ、定着をはかっていきたい。そのためにも、卒業生への入試広報・短大情報の発信の充実を力を入れる。

入試広報については、短大HPをさらに充実させ、発信できるコンテンツを増やす。ソーシャルメディア等のさらなる活用など、情報の発信力を高め、本学の情報が受験者、卒業生にいきわたるよう取り組んでいきたい。オープンキャンパスの充実、日常的な受験相談に対応できる体制の整備を進めていく。また、各分野で活躍する卒業生特集小冊子（MY STORY）を発刊した。今後は、その活用をはかる。

## 4. 進路・就職

地域・社会の各分野で活躍する人材を育むためのキャリア支援の充実を目指す。具体的には、インターンシップの推進、地方Uターン支援の強化、他大学への編入学の支援に取り組む。

インターンシップについては、参加する学生実態を掌握し、支援を進める。地方Uターン支援については、昨年度は北海道との就職協定を締結した。本年度も、地方の就職先企業の情報収集と開拓をさらに進める。また、他大学への編入学の支援として論文や面接対策の充実をはかる。さらに就職活動、進路決定が円滑に進むよう取り組む。